

日照不足及び長雨による農作物への影響と対策

環境農業推進課
産地・流通支援課

○ 水稲

【被害予想】

登熟不良、乳白粒の発生等による品質低下、出穂の遅れ、病害（いもち病、稲こうじ病）の発生。

【対策】

適期防除の実施、早期落水の防止、適期収穫などの基本技術の励行。

○ 野菜

【被害予想】

<露地栽培>

1. 果菜類（ピーマン、シシトウ、オクラ など）

- (1) 果実の発育遅延、落果、花蕾の減少。
- (2) 草勢低下、軟弱徒長、土壌の過湿害・根傷み。
- (3) 雨量の増加による肥料の早期流亡。
- (4) 病害（軟腐病など）の被害拡大。

2. ショウガ

- (1) 塊茎の肥大遅延。
- (2) 病害（根茎腐敗病、青枯病、白星病など）の被害拡大。
- (3) 畦面の土壌流失による塊茎の露出。塊茎への病害（いもち病）の被害拡大。

3. 葉菜類（ニラ・青ネギ など）

- (1) 茎葉の発育遅延、草勢低下、土壌の過湿害・根傷み。
- (2) 雨量の増加による肥料の早期流亡。
- (3) 病害（軟腐病など）の被害拡大。

<雨よけ栽培、施設栽培（生育期・収穫期）>

1. 果菜類（ピーマン、シシトウ など）

- (1) 果実の発育遅延、落果、花蕾の減少。
- (2) 草勢低下、軟弱徒長。
- (3) 病害（軟腐病など）の被害拡大。

2. 新ショウガ

- (1) 塊茎の肥大遅延。

3. ミョウガ

- (1) 花蕾の発育遅延。

<施設栽培：育苗期>

- (1) 苗の軟弱徒長、老化。

<施設栽培（促成作型）：定植～生育期>

1. 果菜類（ナス・ピーマン・シシトウなど）

- (1) 定植苗の軟弱徒長、生育の停滞。
- (2) 低日照下での土壤水分の過多による根傷み。

2. 葉菜類（ニラ・青ネギ など）

- (1) 茎葉の発育遅延、草勢低下。
- (2) 低日照下での土壤水分の過多による根傷み。

【対策】

<露地栽培>

- (1) 降雨が滞水しやすい排水不良園では、園地の周囲への明渠、畦間の溝切りなどをして、園内の排水を促す。
- (2) マルチの未実施園で、畦面の土壤が流失したり、根が畦面に現れている場合には、土が乾いてから畦上げ・覆土を行う。
- (3) 肥料が流亡している場合には、早めに追肥をする。また、液肥の葉面散布により、草勢の回復を図る。
- (4) 晴れ間を待って、殺菌剤を散布し、病害の予防に努める。
- (5) 整枝・摘葉は天候が回復し、茎葉が乾いてから行う。なお、草勢が落ちている場合には、整枝・摘葉は通常より少なくすることが望ましい。
- (6) 着果過多で収穫の遅延・草勢低下が想定される場合は、適宜、摘果する。また、規格外となる幼果は早めに摘果する。
- (7) 収穫は、出荷規格の範囲内で早めに行い、草勢の維持に努める。
- (8) 秋期から始まる品目で定植が遅れる場合は、育苗中の苗に対して、セルトレイ等の間隔を十分とるとともに、液肥を薄く施用（400～500倍希釈）し、草勢の維持を図る。

<雨よけ栽培、施設栽培（生育期・収穫期）>

- (1) 曇天でも必要であれば、殺菌剤を散布し、病害の予防に努める。
- (2) 曇雨天が続いて灌水を控えると、土壤が乾燥して草勢低下を招くことがあるので、雨上がりを待って灌水をしたり、1回の灌水量を加減するなどして、一定の灌水を行う。
- (3) 液肥の葉面散布により、草勢の回復を図る。

- (4) 整枝・摘葉は、天候が回復し、茎葉が乾いてから行う。なお、草勢が落ちている場合には、整枝・摘葉は慣行より少なくする。
- (5) 着果過多で収穫の遅延・草勢低下が想定される場合は、適宜、摘果する。また、規格外となる幼果は早めに摘果する。
- (6) 収穫は、出荷規格の範囲内で早めに行い、草勢の維持に努める。

<施設栽培：育苗期>

- (1) 早めに「鉢ずらし」を行い、苗の空間を確保することで、風通りを良くし、苗全体に十分に光を当てる。
- (2) 生育の遅れや茎葉の軟弱徒長に対しては、気象の推移と生育状況に十分留意して適切な灌水、肥培管理に努め、草勢の回復を図る。
- (3) 曇雨天が続いた後の天候回復に伴う強光による葉や花蕾の焼け症を防止するため、光量に応じて遮光資材を被覆するほか、施設内の換気に努める。

<施設栽培（促成作型）：定植～生育期>

- (1) 太陽熱土壌消毒が十分でないほ場や冠水したほ場では薬剤散布等による立枯病、疫病等の病害対策を徹底する。
- (2) 定植後の生育や天候に応じて、こまめなかん水を行う。
- (3) 定植が遅れて老化苗となった果菜類は、1番果（花）を摘果（花）し、定植後の手灌水をこまめに行って活着の促進を図る。また、生育遅延や草勢の低下が想定される場合には、引き続いて摘果や若どりにより着果負担を軽減する。摘葉は控える。
- (4) 草勢が弱いまま推移するようであれば、液肥による追肥や葉面散布で草勢の回復を図る。
- (5) 施設内が高温・多湿状態にならないよう、換気に努めると共に、循環扇で施設内の空気の攪拌を図る。また、雨天で自然換気が図りにくい場合は、換気扇を作動させる。
- (6) 病害予防のために、整枝・摘葉は晴れ間を待って行い、適時、殺菌剤を散布する。なお、高温時の薬剤散布は、薬害を誘発しやすいので注意する。
- (7) 曇雨天後の天候回復時の高温は、葉やけや葉先枯れの発生につながるなので光量に応じて遮光資材等により被覆を行うほか、施設内の換気に努める。

○ 果樹

【被害予想】

1. 露地カンキツ（温州ミカン、ユズ、ブンタン、日向夏、ポンカン）
 - （1）果実肥大不良による収量低下
 - （2）黒点病等の病害の多発による品質低下
 - （3）果実糖度の低下

2. 施設カンキツ（温州ミカン）
 - （1）浮き皮、着色不良による品質低下
 - （2）果実糖度の低下

3. ナシ
 - （1）果実肥大不良による収量減少
 - （2）炭そ病等の病害の多発による収量、品質低下
 - （3）果実糖度の低下

【対策】

<露地栽培>

- （1）明きよの設置などによる排水対策の徹底。肥料成分が流亡している場合には、追肥または葉面散布を実施する。
- （2）少しの晴れ間でもできれば、殺菌剤による防除を行う。なお、連続した曇雨天後の晴天・高温時の散布は薬害が生じやすいので無用な混用は避ける。
- （3）収穫は適期に行い、収穫遅れに注意する。
- （4）透湿性シートなどマルチングしている園では、晴れ間を見てマルチ資材を剥ぎ土壤の乾燥を図る。

<施設栽培>

- （1）連続した曇雨天後の晴天・高温時には、果実表面の焼け果、また、薬剤散布等による薬害が生じやすいので留意する。
- （2）曇天でも必要なら殺菌剤等による防除を行い、循環扇等で乾かす。
- （3）浮き皮、内容品質低下対策として、適正な水管理、換気扇等によるハウス内湿度の低下に努める。
- （4）収穫は適期に行い、収穫遅れに注意する。

○ 花き

【被害予想】

<露地花き>

- (1) 生育の遅延・軟弱徒長、花蕾の減少
- (2) 病害（立ち枯れ病、軟腐病他など）の被害拡大
- (3) 晴天時の強い萎れや葉焼け。

<施設花き>

1. 育苗（トルコギキョウ他草花類、ダリア）
 - (1) 生育の遅延・徒長、挿し穂の発根不良
 - (2) 挿し穂の発根不良、立ち枯れ病の発生
 - (3) 晴天時の強い萎れによる葉焼け。
2. 生育、収穫
 - (1) 活着不良、生育遅延、花蕾の減少
 - (2) 軟弱徒長、葉焼け
 - (3) 病害（立ち枯れ病、軟腐病他など）の被害拡大
 - (4) 晴天時の強い萎れや葉焼け。

【対策】

<露地花き>

- 1) 排水の悪い圃場では、畦間の溝きりなどにより圃場内の排水を行う。
- 2) 畦の流亡や土の跳ね上がりを防ぐため、ワラ等でマルチを行う。
- 3) 病害の発生がみられる場合には、株の抜き取りや晴れ間に早めに殺菌剤等の防除を行う。
なお、高温時の散布は葉害を生じやすいので注意する。
- 4) 株が軟弱徒長ぎみのため、施肥は少なめに行う。

<施設花き>

- 1) 挿し穂の採取は、晴天後に実施する。
- 2) ハウスの遮光は、曇雨天時には取り除き、できるだけハウス内の日射量を増やす。
- 3) 病害の発生がみられる場合には、株の抜き取りや晴れ間に早めに殺菌剤等の防除を行う。
なお、高温時の散布は葉害を生じやすいので注意する。
- 4) 曇雨天後の晴れ間の葉焼けや強い萎れを防ぐため、光量に応じて遮光資材の実施やハウス内の換気、葉水を実施する。
- 5) 摘心、摘葉は、天候が回復し、茎葉が乾いてから行う。
- 6) 灌水は晴れ間に、生育や土壤水分などを見ながら加減して実施する。